

2023年度（令和5年度）

授 業 計 画

（シラバス）

長野救命医療専門学校

救急救命士学科

医療職業実践専門課程											
救急救命士学科											
一般専門の別	教育内容	科目名	講義・実習の別	授業時間数及び単位数							
				1年次		2年次		3年次		合計	
				時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科学1	講義	60	4					60	4
		科学2	講義	60	4					60	4
		科学3	講義	60	4					60	4
		英語	講義	60	4					60	4
		人文科学	講義	60	4					60	4
		社会科学	講義	60	4					60	4
		体育	実習	60	2					60	2
		礼式訓練・体力錬成	実習	60	2	60	2	30	1	150	5
小 計				480	28	60	2	30	1	570	31
専門分野基礎	人体の構造と機能	人体の構造と機能	講義	60	4					60	4
	疾患の成り立ちと回復の過程	疾患の成り立ちと回復の過程	講義			60	4			60	4
	健康と社会保障	健康と社会保障	講義					45	3	45	3
	小 計				60	4	60	4	45	3	165
専門分野	救急医学概論	救急医学概論	講義	45	3					45	3
		観察・評価	講義	45	3					45	3
		救急処置1	講義	45	2					45	2
		救急処置2	講義	45	2					45	2
	救急症候・病態生理学	救急症候・病態生理学1	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学2	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学3	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学4	講義	30	2					30	2
	疾病救急医学	呼吸器疾患	講義			15	1			15	1
		循環器疾患	講義			15	1			15	1
		消化器疾患	講義			15	1			15	1
		神経疾患	講義			15	1			15	1
		小児・妊産婦疾患	講義			15	1			15	1
		その他の疾患1	講義			15	1			15	1
		その他の疾患2	講義			15	1			15	1
	心電図	講義			15	1			15	1	
	外傷救急医学	外傷総論	講義			30	2			30	2
		外傷各論	講義			45	3			45	3
	環境障害・急性中毒学	急性中毒学、環境に起因する疾患	講義					30	2	30	2
	臨地実習	早期体験実習	実習	45	1					45	1
		シミュレーション基本1	実習	105	2					105	2
		シミュレーション基本2	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用1	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用2	実習					230	5	230	5
		シミュレーション応用3	実習					180	4	180	4
		救急自動車同乗実習	実習					45	1	45	1
		臨床実習	実習					180	4	180	4
	小 計				450	21	555	21	665	16	1670
特論分野	特別演習	特別演習1	講義			180	6			180	6
		特別演習2	講義					120	4	120	4
		特別演習3	講義					300	10	300	10
	小 計						180	6	420	14	600
合 計				990	53	855	33	1160	34	3005	120

科選目扱	科目名	講義・実習の別	授業時間数			
			1年次	2年次	3年次	合計
科選目扱	山岳救命コース（講義）	講義		30		30
	山岳救命コース（登山実習）	実習		30		30
小 計			0	60	0	60

医療職業実践専門課程											
救急救命士学科											
一般専門の別	教育内容	科目名	講義・実習の別	授業時間数及び単位数							
				1年次		2年次		3年次		合計	
				時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科学1	講義	60	4					60	4
		科学2	講義	60	4					60	4
		科学3	講義	60	4					60	4
		英語	講義	60	4					60	4
		人文科学	講義	60	4					60	4
		社会科学	講義	60	4					60	4
		体育	実習	60	2					60	2
		礼式訓練・体力錬成	実習	60	2	60	2	30	1	150	5
小計				480	28	60	2	30	1	570	31
専門分野基礎	人体の構造と機能	人体の構造と機能	講義	90	6					90	6
	疾病の成り立ちと回復の過程	病理学・法医学・薬理学	講義			60	4			60	4
	健康と社会保障	健康と社会保障	講義					60	4	60	4
	小計				90	6	60	4	60	4	210
専門分野	救急医学概論	救急医学概論	講義	60	2					60	2
		観察・評価	講義	60	2					60	2
		救急処置1	講義	90	3					90	3
		救急処置2	講義	90	3					90	3
	救急症候・病態生理学	救急症候・病態生理学1	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学2	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学3	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学4	講義	30	2					30	2
	疾病救急医学	呼吸器疾患	講義			30	2			30	2
		循環器疾患	講義			15	1			15	1
		消化器疾患	講義			15	1			15	1
		神経疾患	講義			15	1			15	1
		小児・妊産婦疾患	講義			30	2			30	2
		その他の疾患1	講義			30	2			30	2
	外傷救急医学	その他の疾患2	講義			30	2			30	2
		外傷総論	講義			60	2			60	2
	環境障害・急性中毒学	外傷各論	講義			60	2			60	2
		環境障害、急性中毒学	講義					30	1	30	1
	臨地実習	早期体験実習	実習	45	1					45	1
		シミュレーション基本1	実習	180	4					180	4
		シミュレーション基本2	実習			225	5			225	5
		シミュレーション応用1	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用2	実習					225	5	225	5
シミュレーション応用3		実習					180	4	180	4	
救急車同乗実習		実習					45	1	45	1	
臨床実習		実習					180	4	180	4	
小計				645	23	690	24	660	15	1995	62
合計				1215	57	810	30	750	20	2775	107

	科目名	講義・実習の別	授業時間数			
			1年次	2年次	3年次	合計
			時間	時間	時間	時間
選択科目	山岳救命コース（講義）	講義		30		30
	山岳救命コース（登山実習）	実習		30		30
	国家試験対策講座	講義			325	325
	公務員試験対策講座	講義		180	120	300
	小計			0	240	445

授 業 計 画

(2023年度)
救急救命士学科 1年生

授業科目 区分	基礎	担当科目	科学1	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	(前期)中村哲也 (後期)師岡さとみ		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	木曜日	1 時限	講義室等	第1普通教室		
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)			
教科書	公務員テキスト「自然科学」			参考書			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉				〈後 期〉			
第1回	物理(1) 力と運動1①		第1回	化学(1) 物質の構造①			
第2回	物理(2) 力と運動1②		第2回	化学(2) 物質の構造②			
第3回	物理(3) 力と運動2①		第3回	化学(3) 物質の構造③			
第4回	物理(4) 力と運動2②		第4回	化学(4) 物質の構造④			
第5回	物理(5) 力と運動・エネルギー①		第5回	化学(5) 物質の三態変化①			
第6回	物理(6) 力と運動・エネルギー②		第6回	化学(6) 物質の三態変化②			
第7回	物理(7) 波動①		第7回	化学(7) 溶液①			
第8回	物理(8) 波動③		第8回	化学(8) 溶液②			
第9回	物理(9) 電気物理学①		第9回	化学(9) 溶液③			
第10回	物理(10) 電気物理学②		第10回	化学(10) 酸・塩基①			
第11回	物理(11) 電気物理学③		第11回	化学(11) 酸・塩基②			
第12回	物理(12) 電気物理学④		第12回	化学(12) 酸化・還元①			
第13回	物理(13) 原子と原子核①		第13回	化学(13) 酸化・還元②			
第14回	物理(14) 原子と原子核②		第14回	化学(14) 無機化合物			
第15回	後期のまとめ 定期試験対策		第15回	前期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区分	基礎	担当科目	科学2		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	水曜日	2 時限	講義室等	第1普通教室			
	後期	水曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト「判断推理・資料解釈」			参考書				
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	判断推理(1) 第2章 暗号①			第1回	前期の復習 前期試験問題解説			
第2回	判断推理(2) 第2章 暗号②			第2回	判断推理(15) 第3章 対応関係(1)勝敗			
第3回	判断推理(3) 第10章 位置①			第3回	判断推理(16) 第4章 対応関係(2)対応①			
第4回	判断推理(4) 第10章 位置②			第4回	判断推理(17) 第4章 対応関係(2)対応②			
第5回	判断推理(5) 第11章 方位①			第5回	判断推理(18) 第5章 対応関係(3)類推			
第6回	判断推理(6) 第11章 方位②			第6回	判断推理(19) 第6章 対応関係(4)嘘つき問題①			
第7回	判断推理(7) 第13章 魔方陣①			第7回	判断推理(20) 第6章 対応関係(4)嘘つき問題②			
第8回	判断推理(8) 第13章 魔方陣②			第8回	判断推理(21) 第7章 順位・順序(1)序列・大小			
第9回	判断推理(9) 第13章 道順①			第9回	判断推理(22) 第8章 順位・順序(2)数値			
第10回	判断推理(10) 第13章 道順②			第10回	判断推理(23) 第9章 順位・順序(3)追い越し・親族関係			
第11回	判断推理(11) 第15章 手順			第11回	判断推理(24) 第12章 集合①			
第12回	判断推理(12) 第16章 曜日			第12回	判断推理(25) 第12章 集合②			
第13回	判断推理(13) 第1章 命題・論理①			第13回	判断推理(26) 第18章 平面図形(1)①			
第14回	判断推理(14) 第1章 命題・論理②			第14回	判断推理(27) 第18章 平面図形(1)②			
第15回	後期のまとめ 定期試験対策			第15回	前期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区分	基礎	担当科目	科学3		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	2 時限	講義室等	パソコン室			
	後期	金曜日	3 時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士に必要な情報処理の知識と技術を習得し、実務で応用できる力を身に付ける。また、プレゼンテーション技術を習得し、国家試験や就職試験に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。				課題の達成度と発表評価				
教科書	繰り返しで慣れる!完全マスター Excel、繰り返しで慣れる!完全マスター Word、ドリルでマスターPowerPoint			参考書				
履修上の 注意事項	課題は毎回授業時間内での評価になるので、欠席すると成績評価で減点となる。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	Word(1) 文字入力			第1回	Excel(1) 文字入力①			
第2回	Word(2) コラム作成①			第2回	Excel(2) 文字入力②			
第3回	Word(3) コラム作成②			第3回	Excel(3) 計算式・関数①			
第4回	Word(4) コラム作成③			第4回	Excel(4) 計算式・関数②			
第5回	PowerPoint(1) プレゼンテーションとは			第5回	Excel(5) 計算式・関数③			
第6回	PowerPoint(2) スライドの作成			第6回	Excel(6) 計算式・関数④			
第7回	PowerPoint(3) 図表の挿入			第7回	Excel(7) グラフ①			
第8回	PowerPoint(4) 情報収集			第8回	Excel(8) グラフ②			
第9回	PowerPoint(5) 資料の作成①			第9回	Excel(9) データベース①			
第10回	PowerPoint(6) 資料の作成②			第10回	Excel(10) データベース②			
第11回	PowerPoint(7) 資料の作成③			第11回	Excel(11) ピボットテーブル			
第12回	PowerPoint(8) シナリオの作成とリハーサル			第12回	Excel(12) 効率化			
第13回	PowerPoint(9) 個人発表			第13回	Excel(13) Wordとの連携			
第14回	PowerPoint(10) 個人発表			第14回	Excel(14) ドリル①			
第15回	PowerPoint(11) 個人発表			第15回	Excel(15) ドリル②			

授業科目 区分	基礎	担当科目	英語		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	福澤 稔		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年	
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	3 時限	講義室等	第1普通教室			
	後期	火曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト 高校受験中3英語 他			参考書				
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
第1回	ガイダンス Placement test			第1回	比較(I) 形容詞・副詞の比較変化etc			
第2回	導入 Placement test 解説			第2回	比較(II) 疑問詞で始まる比較の文etc			
第3回	動詞(現在形) be動詞の現在形、一般動詞の現在形			第3回	命令文・感嘆文 命令文、感嘆文			
第4回	動詞(過去形) be動詞の過去形、一般動詞の過去形			第4回	基本文型 文の要素と基本文型			
第5回	否定文・疑問文 否定文、疑問文と答え方			第5回	受動態(I) 動詞の活用、受動態、by~の省略			
第6回	進行形 進行形の作り方、進行形を作らない動詞			第6回	受動態(II) SVOO、SVOCの文型の受動態etc			
第7回	未来 未来の文、相手の意思をたずねる用法			第7回	現在完了(I) 現在完了、現在完了の用法			
第8回	助動詞 助動詞、助動詞の働きをする語句			第8回	現在完了(II) 注意すべき用法etc			
第9回	名詞 数えられる名詞と数えられない名詞 etc			第9回	不定詞(I) 不定詞と用法			
第10回	代名詞(I) 人称代名詞、指示代名詞、itの特別用法			第10回	不定詞(II) want[ask, tell]...to~の用法etc			
第11回	代名詞(II)・冠詞 不定代名詞・冠詞			第11回	動名詞 動名詞とその用法etc			
第12回	形容詞 形容詞の用法と位置、いろいろな形容詞			第12回	分詞 現在分詞とその用法etc			
第13回	副詞・部分否定 副詞の用法と位置、部分否定			第13回	関係代名詞 関係代名詞の用法etc			
第14回	疑問詞 疑問詞で始まる疑問文			第14回	接続詞・特別な疑問文 接続詞、付加疑問文・間接疑問文			
第15回	総合 前期まとめ			第15回	総合 後期まとめ			

授業科目 区分	基礎	担当科目	人文科学	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	桂木 恵		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	火曜日	4 時限	講義室等	第1普通教室		
	後期	火曜日	2 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)			
教科書	公務員テキスト ほか			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉				〈後 期〉			
第1回	日本史1 旧石器時代～推古朝			第1回	世界史1 古代(1)		
第2回	日本史2 律令国家の形成～奈良時代(1)			第2回	世界史2 古代(2)		
第3回	日本史3 律令国家の形成～奈良時代(2)			第3回	世界史3 中世ヨーロッパ(1)		
第4回	日本史4 平安時代(1)			第4回	世界史4 中世ヨーロッパ(2)		
第5回	日本史5 平安時代(2)			第5回	世界史5 近代ヨーロッパの誕生		
第6回	日本史6 鎌倉時代			第6回	世界史6 近代国家の形成(1)		
第7回	日本史7 建武の新政～室町幕府(～応仁の乱)			第7回	世界史7 近代国家の形成(2)		
第8回	日本史8 戦国時代～桃山(織豊政権)時代			第8回	世界史8 中国史(古代～元)(1)		
第9回	日本史9 江戸時代(初期～三大改革)(1)			第9回	世界史9 中国史(古代～元)(2)		
第10回	日本史10 江戸時代(初期～三大改革)(2)			第10回	世界史10 中国史(明～)(1)		
第11回	日本史11 江戸末期			第11回	世界史11 中国史(明～)(2)		
第12回	日本史12 明治初期(～日清戦争)(1)			第12回	世界史12 南・西アジア史		
第13回	日本史13 明治初期(～日清戦争)(2)			第13回	世界史13 現代の社会(1)		
第14回	日本史14 明治中期～太平洋戦争(1)			第14回	世界史14 現代の社会(2)		
第15回	日本史15 明治中期～太平洋戦争(2)			第15回	世界史15 芸術史 演習問題		

授業科目 区分	基礎	担当科目	社会科学		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	桂木 恵		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年	
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	1 時限	講義室等	第1普通教室			
	後期	火曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト ほか			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	世界史16 終戦後(1)			第1回	政治7 選挙制度と政党政治／国際政治			
第2回	世界史17 終戦後(2)			第2回	経済1 市場の形態			
第3回	世界史18 文化史			第3回	経済2 景気と金融政策			
第4回	地理1 地図の図法／世界の地形			第4回	経済3 財政政策と税金・通貨			
第5回	地理2 世界の気候			第5回	経済4 国民所得と景気変動			
第6回	地理3 世界の産業			第6回	経済5 国際経済			
第7回	地理4 各国地誌、人種、言語 演習問題			第7回	経済6 日本の経済			
第8回	地理5 人口問題、都市問題、環境問題			第8回	倫理・社会1 労働関係			
第9回	地理6 日本の地誌			第9回	倫理・社会2 社会保障制度			
第10回	政治1 民主政治			第10回	倫理・社会3 青少年の心理			
第11回	政治2 日本国憲法			第11回	倫理・社会4 社会集団と現代社会の構造			
第12回	政治3 基本的人権			第12回	倫理・社会5 日本・東洋の思想(1)			
第13回	政治4 立法権・国会／行政権・内閣			第13回	倫理・社会6 日本・東洋の思想(2)			
第14回	政治5 行政権・内閣司法権・裁判所			第14回	倫理・社会7 西洋の思想(1)			
第15回	政治6 地方自治／選挙制度と政党政治			第15回	倫理・社会8 西洋の思想(2)			

授業科目 区分	基礎	担当科目	体育	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	山崎絵美子、小林拓幹		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	金曜日	2 時限	講義室等	東御市第一・第二体育館・グラウンド		
	後期	金曜日	2 時限	授業形式	演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
<p>集団で体を動かすことによって、基礎体力を維持するとともに、社会性・協調性・精神的充実感を向上させる。</p>				<p>出席状況と授業態度により評価する</p>			
教科書				参考書			
履修上の 注意事項	<p>1. 授業開始10分前までに体育館に直接集合し、体操着に着替えておくこと。 2. 上履きを持参すること。</p>						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	オリエンテーション(両学科合同) 授業概要・グループ決め・ドッチボール			第16回	オリエンテーション 授業概要・グループ決め		
第2回	球技 ゲーム①			第17回	球技 ゲーム①		
第3回	球技 ゲーム②			第18回	球技 ゲーム②		
第4回	球技 ゲーム③			第19回	球技 ゲーム③		
第5回	球技 ゲーム④			第20回	球技 ゲーム④		
第6回	球技 ゲーム⑤			第21回	球技 ゲーム⑤		
第7回	球技 ゲーム⑥			第22回	球技 ゲーム⑥		
第8回	球技 ゲーム⑦			第23回	球技 ゲーム⑦		
第9回	球技 ゲーム⑧			第24回	球技 ゲーム⑧		
第10回	球技 ゲーム⑨			第25回	球技 ゲーム⑨		
第11回	球技 ゲーム⑩			第26回	球技 ゲーム⑩		
第12回	球技 ゲーム⑪			第27回	球技 ゲーム⑪		
第13回	球技 ゲーム⑫			第28回	球技 ゲーム⑫		
第14回	球技 ゲーム⑬			第29回	球技 ゲーム⑬		
第15回	球技 ゲーム⑭			第30回	球技 ゲーム⑭		

授業科目 区分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	宮尾 政成		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	木曜日	4 時限	講義室等	グランド・実習室		
	後期			授業形式	実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
礼節を明らかにして規律を正し、和衷協同にして団結を強固にし、確実軽快な部隊行動ができる。統制のある規律と精神力、体力増進の基礎を体得する。				実技試験			
教科書				参考書	消防訓練礼式の基準		
履修上の 注意事項	「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏でかつ節度をもって臨むこと。 「服装」は端正にして統一されていること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉							
第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」			体力錬成の概要 (1) ウォームアップ			
第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」			(2) ランニング (3) 腕立て伏せ 100回			
第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			(4) 背筋 100回 (5) 腹筋 100回			
第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			(6) スクワット 100回 (7) バギージャンプ 20回			
第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・止まれ」			(8) ラウンジスクワット 20回 (9) 振幅横跳び 20回			
第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」			(10)ダッシュ 2本 (11)背走 2本			
第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			(12)ファイヤーマンズキャリー (13)サドルバックキャリー			
第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			(14)手押し車 (15)クールダウン			
第9回	停止間から行進間への動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」						
第10回	停止間から行進間への動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」			注1 天候により訓練内容に変更あり。			
第11回	停止間から行進間への動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」						
第12回	服装と手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」						
第13回	敬礼 「拳手・室内の敬礼」「目迎・目送の敬礼」						
第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①						
第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②						

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	人体の構造と機能	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日1時限、水曜日1時限、水曜日3時限		講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
人体の構造と機能の基本を有機的に理解し、近い将来に履修する臨床的諸問題に結びつけて応用できるようになる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。全レポートの提出は定期試験受験の前提となる。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.56～p.162			参考書	マリーブ人体の構造と機能 第4 版		
履修上の 注意事項	半年間で集中的に履修する						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	人体を構成する要素(1) 人体の作りとその役割			第16回	感覚系(1) 総論 視覚器		
第2回	人体を構成する要素(2) 体液			第17回	感覚系(2) 聴覚・平衡覚器 味覚器 嗅覚器 体性感覚		
第3回	体表からみる人体の構造(1) 位置・方向・運動の用語～胸部の構造			第18回	呼吸系(1) 総論 気道		
第4回	体表からみる人体の構造(2) 腹部の構造～臓器の体表からの位置			第19回	呼吸系(2) 胸郭 胸膜 換気メカニズム		
第5回	確認テスト① 人体を構成する要素～体表からみる人体の構造			第20回	呼吸系(3) 肺 ガス交換 酸素運搬 呼吸の調節		
第6回	神経系(1) 神経系の構成と役割			第21回	確認テスト④ 感覚系 呼吸系		
第7回	神経系(2) 大脳			第22回	循環系(1) 総論 心臓の構造		
第8回	神経系(3) 間脳、小脳、脳幹、脊髄			第23回	循環系(2) 心臓の機能		
第9回	神経系(4) 脳神経			第24回	循環系(3) 循環の制御		
第10回	確認テスト② 神経系の構成と役割～脳神経			第25回	循環系(4) 脈管 心臓模型の観察		
第11回	神経系(5) 脊髄神経 自律神経			第26回	確認テスト⑤ 循環系		
第12回	神経系(6) 伝導路			第27回	消化系(1) 総論 口腔 咽頭 食道 胃		
第13回	神経系(7) 脳室系 脳脊髄液 髄膜 脳の生理			第28回	消化系(2) 小腸 大腸 肝臓 胆道系		
第14回	神経系(8) 脳模型の観察			第29回	消化系(3) 膵臓 門脈 腹膜と腸間膜 消化と吸収		
第15回	確認テスト③			第30回	確認テスト⑥		

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	人体の構造と機能	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日1時限、水曜日1時限、水曜日3時限		講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
人体の構造と機能の基本を有機的に理解し、近い将来に履修する臨床的諸問題に結びつけて応用できるようになる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。全レポートの提出は定期試験受験の前提となる。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.56～p.162			参考書	マリーブ人体の構造と機能 第4 版		
履修上の 注意事項	半年間で集中的に履修する						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉							
第31回	泌尿系 総論 腎臓 尿路						
第32回	生殖系(1) 男性生殖器 女性生殖器(外性器)						
第33回	生殖系(2) 女性生殖器(内性器、性周期と月経)						
第34回	内分泌系(1) 総論 各論(下垂体、甲状腺)						
第35回	内分泌系(2) 副甲状腺、副腎、膵臓、性腺、その他						
第36回	確認テスト⑦ 泌尿系 生殖系 内分泌系						
第37回	血液・免疫系(1) 総論 血球						
第38回	血液・免疫系(2) 血漿 血液型 骨髄 脾臓 止血と凝固						
第39回	血液・免疫系(3) 免疫						
第40回	筋・骨格系(1) 総論 骨格筋						
第41回	筋・骨格系(2) 骨 関節 靭帯 脊柱						
第42回	確認テスト⑧ 血液・免疫系 筋・骨格系						
第43回	皮膚系 栄養素とその代謝						
第44回	生命の維持						
第45回	確認テスト⑨						

授業科目 区分	専門	担当科目	救急医学概論	単位数	3単位	選択 必修	必修
				時間数	45時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	1年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日3時限、水曜日4時限		講義室等	第1普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 救急医療の概念と体制について説明できる。 2. 災害医療の体制と救急活動を説明し、トリアージを実施できる。 3. 消防機関における救急活動、法令、生涯教育について説明できる。 4. 救急活動上の安全管理、感染対策、救急隊員の精神衛生について説明できる。				定期試験(筆記試験)			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版 P.218～297			参考書	標準 多数傷病者対応MCLSテキスト		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った予習・復習を行うこと						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈前期〉			
第1回	救急医療体制 救急業務の沿革		第16回	救急救命士に関する法令 法令の基本～救急救命士法			
第2回	救急医療体制 応急救護体制		第17回	救急救命士に関する法令 医師法～医療法			
第3回	救急医療体制 救急搬送体制		第18回	救急救命士に関する法令 医療法～その他の法令			
第4回	救急医療体制 救急告示病院制度		第19回	救急救命士の生涯教育 救急救命士の養成課程～病院実習			
第5回	救急医療体制 メディカルコントロール～PDCAサイクル		第20回	確認テスト④			
第6回	確認テスト①		第21回	安全管理と事故対応 安全管理～傷病者の事故			
第7回	災害医療体制 災害の概念、分類		第22回	安全管理と事故対応 救急救命士等の事故～事故の報告			
第8回	災害医療体制 多数傷病者対応～トリアージ		第23回	感染対策 感染予防策と感染防御～救急活動での感染防御			
第9回	災害医療体制 大規模災害～特殊災害		第24回	感染対策 衛生的手洗いの実施			
第10回	確認テスト②		第25回	感染対策 洗浄と消毒			
第11回	消防機関における救急活動の流れ 119番受信と通信体制		第26回	感染対策 感染事故と事故後の対応			
第12回	消防機関における救急活動の流れ 救急活動の記録～関係機関との連携		第27回	ストレスに対するマネージメント 救急活動でのストレス			
第13回	救急救命士の役割と責任 接遇とコミュニケーションの種類		第28回	ストレスに対するマネージメント ストレスへの対応			
第14回	救急救命士の役割と責任 救急活動の説明～生前意思表示への対応		第29回	確認テスト⑤			
第15回	確認テスト③		第30回	総復習テスト			

授業科目 区分	専門	担当科目	観察・評価	単位数	3 単位	選択 必修	必修
				時間数	45 時間		
担当教員	小林 拓幹		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	火曜日2時限、金曜日4時限		講義室等	第1普通教室および実習室		
	後期			授業形式	講義、演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 健常者において、全身および局所の所見を、正確な手技で実際に観察できる。 2. 資器材を用いた観察ができる。 3. 観察結果をもとに緊急度・重症度の判断ができる。				授業時間内に随時行う実技評価、および定期試験における筆記試験で評価する。			
教科書	救急救命士標準テキスト改定第10版 上巻 P300～343			参考書	人体の構造と機能 救急救命処置法 JPTEC		
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈前期〉			
第1回	観察① A 観察の目的と意義 B バイタルサイン			第16回	緊急度・重症度判断① A 緊急度と重症度 B 判断の基準(1)		
第2回	観察②・実技 C 観察の方法			第17回	緊急度・重症度判断② A 緊急度と重症度 B 判断の基準(2)		
第3回	全身状態の観察①・実技 A 外見の観察(1体位～12行動)			第18回	確認テスト②		
第4回	全身状態の観察②・実技 B、C 気道・呼吸に関する観察			第19回	資器材による観察①・実技 A パルスオキシメータ B カプノメータ		
第5回	全身状態の観察③・実技 D,E 循環・意識状態に関する観察			第20回	資器材による観察②・実技 C 聴診器 D 血圧計(1)		
第6回	全身状態の観察④・実技 A～Eの復習			第21回	資器材による観察③・実技 C 聴診器 D 血圧計(2)		
第7回	全身状態の観察⑤・実技 全身観察、バイタルサイン観察方法			第22回	資器材による観察④・実技① E 心電図モニター 十二誘導		
第8回	確認テスト①			第23回	実技② E 心電図モニター 十二誘導		
第9回	局所の観察①・実技 A 観察結果の表現 B 皮膚 C 頭部			第24回	実技③ E 心電図モニター 十二誘導(半自動除細動器)		
第10回	局所の観察②・実技 D 胸部・背部 E 腹部			第25回	実技④ E 十二誘導		
第11回	局所の観察③・実技 F 鼠径部 G四肢 H手指 Jアルゴリズム			第26回	実技⑤ 実技試験 E 十二誘導		
第12回	局所の観察④ A～Jの復習			第27回	実技⑥ 実技試験 E 十二誘導		
第13回	実技試験① 全身観察			第28回	資器材による観察⑤・実技 F 体温計 G 血糖測定器		
第14回	実技試験② 全身観察			第29回	確認テスト③		
第15回	神経所見の観察① A運動機能～F神経学的異常の観察方法			第30回	復習		

授業科目 区分	専門	担当科目	救急症候・病態生理学1, 2	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	月曜日1限、火曜日1限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 呼吸不全、心不全、ショック、重症脳障害、心肺停止に関する概念、病態、原因、症候、対応について、それぞれ説明できる。 2. 意識障害、頭痛、痙攣の原因、評価、対応について説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。全レポートの提出は定期試験受験の前提となる。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.454-502			参考書			
履修上の 注意事項	救急症候病態生理学は、1・2、3、4の4科目を3名の教員で分担して授業を行う。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉				〈後 期〉			
第1回	呼吸不全(1) 定義と概念 生体への影響 原因疾患			第16回	確認テスト④ 心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック 血液分布異常性ショック		
第2回	呼吸不全(2)低酸素血症の発生機序 生体への影響 症候 緊急度・重症度			第17回	重症脳障害(1) 総論 発生機序 一次性・二次性脳病変 頭蓋内圧亢進		
第3回	呼吸不全(3)高二酸化炭素血症の発生機序 換気障害			第18回	重症脳障害(2) 脳ヘルニア 特殊な意識障害		
第4回	確認テスト① 呼吸不全			第19回	確認テスト⑤ 重症脳障害		
第5回	心不全(1) 定義と概念 原因疾患			第20回	心肺停止(1) 定義と概念 疫学 心肺停止に至る病態		
第6回	心不全(2) 病態生理			第21回	心肺停止(2) 生体酸素状況 主な原因疾患 心電図分類		
第7回	心不全(3) 症候 種類 急性増悪 現場活動			第22回	心肺停止(3) 心肺蘇生中の循環 心拍再開後の病態		
第8回	確認テスト② 心不全			第23回	確認テスト⑥ 心肺停止		
第9回	ショック(1) 定義と概念 種類と分類 病態			第24回	意識障害(1) 原因 随伴症候(前半)		
第10回	ショック(2)循環血液量減少性ショック(1) 発生機序～体液変動			第25回	意識障害(2) 随伴症候(後半) 判別を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動		
第11回	ショック(3)循環血液量減少性ショック(2) 原因疾患 症候 現場活動			第26回	頭痛(1) 発症機序 分類 原因疾患		
第12回	確認テスト③ ショック総論 循環血液量減少性ショック			第27回	頭痛(2)発症の状況 性状 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動		
第13回	ショック(4) 心原性ショック			第28回	痙攣(1) 定義・概念 病態 分類 原因疾患		
第14回	ショック(5) 心外閉塞・拘束性ショック			第29回	痙攣(2)随伴症候 広義の痙攣 判別を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動		
第15回	ショック(6) 血液分布異常性ショック			第30回	確認テスト⑦		

授業科目 区分	専門	担当科目	救急症候・病態生理学3	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	30 時間		
担当教員	小林 拓幹		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期			講義室等	第1普通教室		
	後期	月曜日	2 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 救急で重要な症候を列挙できる。 2. 運動麻痺、めまい、呼吸困難、喀血、失神の原因、評価、対応について説明できる。				定期試験(筆記試験)			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト P503～521			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉				〈後 期〉			
第1回	運動麻痺(1) 定義・概念 発症機序 分類			第16回			
第2回	運動麻痺(2) 原因疾患 随伴症候			第17回			
第3回	運動麻痺(3) 判断を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			第18回			
第4回	確認テスト① 運動麻痺			第19回			
第5回	めまい(1) 定義・概念 発症機序 分類 原因疾患			第20回			
第6回	めまい(2) 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			第21回			
第7回	呼吸困難(1) 定義・概念 分類 原因疾患			第22回			
第8回	呼吸困難(2) 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			第23回			
第9回	確認テスト② めまい 呼吸困難			第24回			
第10回	喀血(1) 定義・概念 分類 喀血による影響 原因疾患			第25回			
第11回	喀血(2) 判断を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			第26回			
第12回	一過性意識消失と失神(1) 定義・概念 原因			第27回			
第13回	一過性意識消失と失神(2) 緊急度・重症度の判断 現場活動			第28回			
第14回	確認テスト③ 喀血 一過性意識消失と失神			第29回			
第15回	復習			第30回			

授業科目 区分	専門	担当科目	救急症候・病態生理学4	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	30 時間		
担当教員	宮尾 政成		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期			講義室等	第1普通教室		
	後期	月曜日	3 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇に関する概念、病態、原因、評価、対応について、それぞれ説明できる。				定期試験(筆記試験)			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版 P.522～544			参考書			
履修上の 注意事項	シラバスに沿った予習・復習を行うこと						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉				〈後 期〉			
第1回	胸痛(1) 定義・概念～原因疾患						
第2回	胸痛(2) 原因疾患～現場活動						
第3回	動悸(1) 定義・概念～原因疾患						
第4回	動悸(2) 随伴症候～現場活動						
第5回	腹痛(1) 発生機序～原因疾患						
第6回	腹痛(3) 原因疾患～現場活動						
第7回	確認テスト① 胸痛 動悸 腹痛						
第8回	吐血・下血(1) 定義・概念～病態						
第9回	吐血・下血(2) 病態～現場活動						
第10回	腰痛・背部痛(1) 定義・概念～重症度・緊急度の判断						
第11回	腰痛・背部痛(2) 重症度・緊急度の判断～現場活動						
第12回	体温上昇(1) 定義・概念～発熱の分類と種類						
第13回	体温上昇(2) 発熱の分類と種類～現場活動						
第14回	確認テスト② 吐血・下血 腰痛・背部痛 体温上昇						
第15回	総復習テスト						

授業科目区分	専門	担当科目	救急処置1	単位数	2単位	選択必修	必修
				時間数	45時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	1年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日2時限、木曜日3時限、金曜日3時限		講義室等	1年教室・実習室		
	後期			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 救急救命処置の定義を説明できる。 2. 救急救命処置名を列挙できる。 3. 救急救命処置の目的や適応、手技や合併症等の説明ができる。 4. 特定行為以外の救急救命処置を生体または人形で実施できる。				定期試験			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト			参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈前期〉			
第1回	座学(1) 授業概要 気道確保 気道確保の種類と方法		第16回	座学(5) 除細動器の構造と機能 除細動器の概要・構造と機能			
第2回	実習1 気道確保の実施要領		第17回	実習12 除細動器取扱 除細動器の取扱要領			
第3回	実習2 気道確保の実施要領		第18回	実習13 除細動器取扱要領 除細動器の取扱要領			
第4回	座学(2) 吸引器・酸素投与 口腔内の吸引と酸素投与の適応と方法		第19回	座学(6) 体位管理 体位の種類と適応			
第5回	実習3 吸引器・酸素投与 器具を使用した吸引・酸素投与		第20回	実習14 体位の適応と判断 仰臥位・側臥位・腹臥位・回復体位			
第6回	実習4 吸引器・酸素投与 器具を使用した吸引・酸素投与		第21回	実習15 体位の適応と判断 起坐位・足側高位・膝屈位・妊婦の側臥位			
第7回	座学(3) 人工呼吸法 成人・小児・乳児の人工呼吸方法		第22回	座学(6) 創傷処置 止血・固定・創傷処置等の適応と判断			
第8回	実習5 成人・小児・乳児の人工呼吸 人工呼吸法 BVM 気管切開		第23回	実習16 創傷処置 直接圧迫法・間接圧迫法・止血帯			
第9回	実習6 成人・小児・乳児の人工呼吸 デマンド インハレータ取扱要領		第24回	実習17 創傷処置 三角巾・止血帯・副子固定			
第10回	座学(4) 用手胸骨圧迫 成人・小児・乳児 1人法 2人法		第25回	実習18 創傷処置 三角巾・止血帯・副子固定			
第11回	実習7 対象者別 用手胸骨圧迫 成人 2人法		第26回	座学(7) 固定処置 陰圧ギブス・ショックパンツ・KED			
第12回	実習8 対象者別 用手胸骨圧迫 小児・乳児 1人法 2人法		第27回	実習19 固定処置 陰圧ギブス・ショックパンツ・KED			
第13回	実習9 自動式心マッサージ器 type(ルーカstype)		第28回	実習20 固定処置 バックボード・スクープ・サブストレッチャー			
第14回	実習10 自動式心マッサージ器 type(ルーカstype)		第29回	実習21 固定処置 バックボード・スクープ・サブストレッチャー			
第15回	実習11 用手と器具による胸骨圧迫 用手と自動式 type(ルーカstype)		第30回	座学(8) 考査 1 確認テスト			

授業科目 区分	専門	担当科目	救急処置1	単位数	2単位	選択 必修	必修
				時間数	45時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	1年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日2時限、木曜日3時限、金曜日3時限		講義室等	1年教室・実習室		
	後期			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 救急救命処置の定義を説明できる。 2. 救急救命処置名を列挙できる。 3. 救急救命処置の目的や適応、手技や合併症等の説明ができる。 4. 特定行為以外の救急救命処置を生体または人形で実施できる。				定期試験			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト			参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第31回	座学(9) 救急蘇生法 成人の救急蘇生法						
第32回	座学(10) 救急蘇生法 小児・乳児の蘇生法						
第33回	実習22 心肺蘇生法 成人の心肺蘇生法						
第34回	実習23 心肺蘇生法 成人の心肺蘇生法						
第35回	実習24 心肺蘇生法 小児・乳児の蘇生法						
第36回	実習25 心肺蘇生法 小児・乳児の蘇生法						
第37回	座学(11) 在宅療法継続中の処置 呼吸補助療法						
第38回	座学(12) 在宅療法継続中の処置 栄養補助療法 排泄補助療法						
第39回	座学(13) 在宅療法継続中の処置 在宅注射療法 補助腎臓療法						
第40回	座学(14) 傷病者搬送 搬送総論・搬送方法・搬送手段						
第41回	座学(15) 傷病者搬送 Drヘリの搬送と搬出・車外救出						
第42回	実習26 搬出・救出 搬送方法と搬送手段						
第43回	実習27 搬送・救出 車外救出と搬送手段						
第44回	座学 考査 2 確認テスト ②						
第45回	実技 考査 1 確認テスト ①						

授業科目 区分	専門	担当科目	救急処置2	単位数	2単位	選択 必修	必修
				時間数	45時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	1年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期		講義室等	1年教室・実習室			
	後期	水曜日3時限、木曜日1時限、木曜日2時限	授業形式	講義・実習			
授業のねらい、目標			成績評価の方法				
1. 救急救命処置の定義を説明できる。 2. 救急救命処置名を列挙できる。 3. 救急救命処置の目的や適応、手技や合併症等の説明ができる。 4. 特定行為以外の救急救命処置を生体または人形で実施できる。			定期試験				
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト		参考書	救急救命処置法 東京法令出版			
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後期〉							
第1回	気管挿管の基礎知識(座学)		第16回	声門上気道デバイス等を用いた気道確保(2) コンビチューブ スミウエイWB ラリゲアルチューブ			
第2回	喉頭展開(1)		第17回	実技テスト④ 声門上気道デバイス等を用いた気道確保			
第3回	喉頭展開(2)		第18回	静脈路確保とアドレナリンの投与の基礎知識(座学)			
第4回	喉頭展開(3)		第19回	静脈穿刺(1)			
第5回	気管挿管(1)		第20回	静脈穿刺(2)			
第6回	気管挿管(2)		第21回	静脈穿刺(3)			
第7回	気管挿管(3)		第22回	輸液路の準備と静脈穿刺(1)			
第8回	気管挿管とCPRの組合せ(1)		第23回	輸液路の準備と静脈穿刺(2)			
第9回	気管挿管とCPRの組合せ(2)		第24回	輸液路の準備と静脈穿刺(3)			
第10回	気管挿管とCPRの組合せ(3)		第25回	静脈路確保とアドレナリンの投与(1)			
第11回	気管挿管とCPRの組合せ(4)		第26回	静脈路確保とアドレナリンの投与(2)			
第12回	実技テスト② 気管挿管		第27回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(1)			
第13回	ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管		第28回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(2)			
第14回	実技テスト③ ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管		第29回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(3)			
第15回	声門上気道デバイス等を用いた気道確保(1) LM アイジェル 経鼻/経口エアウェイ		第30回	実技テスト⑤ 静脈確保と薬剤投与			

授業科目 区分	専門	担当科目	救急処置2	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	45 時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期		講義室等	1年教室・実習室			
	後期	水曜日3時限、木曜日1時限、木曜日2時限	授業形式	講義・実習			
授業のねらい、目標			成績評価の方法				
1. 救急救命処置の定義を説明できる。 2. 救急救命処置名を列挙できる。 3. 救急救命処置の目的や適応、手技や合併症等の説明ができる。 4. 特定行為以外の救急救命処置を生体または人形で実施できる。			定期試験				
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト		参考書	救急救命処置法 東京法令出版			
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉							
第31回	実技テスト⑥ 静脈確保と薬剤投与						
第32回	体液とその変動(座学)						
第33回	ショックに対する輸液(1)						
第34回	ショックに対する輸液(2)						
第35回	ショックに対する輸液(3)						
第36回	実技テスト⑦ ショックに対する輸液						
第37回	実技テスト⑧ ショックに対する輸液						
第38回	糖代謝と低血糖(座学)						
第39回	血糖測定の基礎、測定(座学) 糖代謝と低血糖(座学)						
第40回	ブドウ糖溶液の投与(1)						
第41回	ブドウ糖溶液の投与(2)						
第42回	ブドウ糖溶液の投与(3)						
第43回	ブドウ糖溶液の投与(4)						
第44回	実技テスト⑨ 静脈確保とブドウ糖溶液の投与						
第45回	実技テスト⑩ 静脈確保とブドウ糖溶液の投与						

授業科目区分	専門	担当科目	シミュレーション基本1	単位数	2単位	選択必修	必修
				時間数	105時間		
担当教員	小林拓幹、宮尾政成、武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	1年
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)				
実務経験の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	実習室		
	後期	月曜日4限・水曜日1限・木曜日4限・金曜日4限		授業形式	実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
短く単純なシナリオに沿って模擬傷病者の基本的な処置ができる。				実技試験			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト			参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の注意事項	実習はシラバスにより順次行うので予習は確実に先行い授業に臨むこと。 救急用資器材に精通すること。器具愛護の精神を大切にすること。 出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後期〉				〈後期〉			
第1回	症例1 野球の打球が胸に当たり意識がない 第1～4回		第16回				
第2回	症例2 蜂にさされた 第5～8回		第17回				
第3回	症例3 2階のベランダから転落した 第9～12回		第18回				
第4回	症例4 在宅酸素療法者の呼吸苦 第13～16回		第19回				
第5回	症例5 工場で指を切断した 第17～20回		第20回				
第6回	症例6 包丁で数カ所さされた 第21～24回		第21回				
第7回	症例7 在宅酸素中の男性が意識がない 第25～28回		第22回				
第8回	症例8 子供がプールで溺れている 第29～32回		第23回				
第9回	症例9 食事中に苦しみだした 第33～36回		第24回				
第10回	症例10 作業の足場から墜落した 第37～40回		第25回				
第11回	症例11 胸痛を訴えている 第41～44回		第26回				
第12回	症例12 自宅の階段から転落した 第45～48回		第27回				
第13回	症例13 2歳の男の子が味噌汁でやけどした 第49～52回		第28回				
第14回	症例14 病院まで時間を要する心肺停止 第53～56回		第29回				
第15回	症例15 気分不快と動悸を訴えている 第57～60回		第30回				

授業科目 区分	専門	担当科目	早期体験実習	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	45 時間		
担当教員	武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	各消防機関 校内外 実習室		
	後期	水曜日	2 時限	授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
<p>消防活動の根幹である、消火、救急、救助活動における基本的な活動要領および各種資機材の取扱について基本的な知識と技術を体得する。消防署における実習体験を通してその実際を知る。各種の資格取得講習会に参加し指導技法などを体得する。</p>				<p>1. レポート提出 2. 評価の記録 3. 修了証</p>			
教科書				参考書	消防操法の基準 救助資機材マニュアル		
履修上の 注意事項	外部研修においては各施設の指導者に従い、消防業務の支障とならないよう言動には十分注意する。 消防資機材訓練においては怪我等に注意する。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回				第1回	普通救命講習会(管轄消防本部) 応急手当の基本		
第2回				第2回	早期体験実習(管轄消防本部) 各消防本部における実習体験		
第3回				第3回	消防体験実習(校内実習)(1) 救助器具(梯子取り扱い)		
第4回				第4回	消防体験実習(校内実習)(2) 救助器具(ロープ結索)		
第5回				第5回	消防体験実習(校内実習)(3) 消火器具(ホース取り扱い)		
第6回				第6回	消防体験実習(校内実習)(4) 消火器具・救助器具総合訓練		
第7回				第7回	メディカルラリー参加(県下各医療機関) 救急技術競技会		
第8回				第8回			
第9回				第9回			
第10回				第10回			
第11回				第11回			
第12回				第12回			
第13回				第13回			
第14回				第14回			
第15回				第15回			

授 業 計 画

(2023年度)
救急救命士学科 2年生

授業科目 区分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	小林拓幹、武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)				
実務経験 の運用	将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	水曜日	1 時限	講義室等	グラウンドまたは実習室		
	後期	金曜日	2 時限	授業形式	演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
<p>礼節を明らかにして規律を正し、和衷共同にして団結を強固にし、確実軽快な部隊行動ができる。将来消防官として職務遂行ができる統制のある規律と精神力、体力増進の基礎を体得する。徽章授与式に向けて準備も行う。</p>				定期実技試験			
教科書				参考書	消防訓練礼式の基準		
履修上の 注意事項	<p>「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏でかつ節度のある体動で臨むこと。 「服装」は端正にして統一されていること。</p>						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」			第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」		
第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」			第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」		
第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」		
第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」		
第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・とまれ」			第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・とまれ」		
第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」			第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」		
第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」		
第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」		
第9回	停止間から行進間の動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」			第9回	停止間から行進間の動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」		
第10回	停止間から行進間の動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」			第10回	停止間から行進間の動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」		
第11回	停止間から行進間の動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」			第11回	停止間から行進間の動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」		
第12回	服装・手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」			第12回	服装・手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」		
第13回	敬礼 「拳手の敬礼」「室内の敬礼」			第13回	敬礼 「拳手の敬礼」「室内の敬礼」		
第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①			第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①		
第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②			第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②		

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	疾患の成り立ちと 回復の過程	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	木曜日	1 時限	講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 病理学上の基本概念を臨床例に即して説明できる。 2. 死体現象の概要と死の社会的意義について説明できる。 3. 医薬品の基本的事項について簡単に説明できる。 4. 救急医療で頻用される検査について簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.164-214			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉				〈後 期〉			
第1回	疾患(1) 疾患の原因		第16回	法医学(1) 損傷と治癒			
第2回	疾患(2) 疾患の発症と経過		第17回	法医学(2) 死の概念 死の疫学 死体現象			
第3回	疾患(3) 疾患からの回復 疾患の予防		第18回	法医学(3) 死にかかわる手続きと検査 死体の尊厳			
第4回	確認テスト① 疾患		第19回	確認テスト④ 法医学			
第5回	細胞傷害		第20回	医薬品総論(1) 医薬品の概念 種類 有害作用			
第6回	炎症		第21回	医薬品総論(2) 投与経路 体内動態			
第7回	感染(1) 感染と感染症 病原体と病原性 病原性微生物		第22回	医薬品各論(1) 救急救命処置に用いられる薬剤			
第8回	感染(2) 感染の成り立ち 薬剤耐性		第23回	医薬品各論(2) 注意を要する常用薬			
第9回	確認テスト② 細胞傷害～感染		第24回	医薬品各論(3) 重要な静脈内投与薬			
第10回	循環障害(1) 虚血・梗塞 うっ血 浮腫		第25回	確認テスト⑤ 医薬品			
第11回	循環障害(2) 出血 血液凝固 血栓 塞栓		第26回	検査(1) 種類 緊急検査 検体検査			
第12回	腫瘍(1) 概念 種類 腫瘍の発生		第27回	検査(2) 生理検査 画像検査 内視鏡検査			
第13回	腫瘍(2) 悪性腫瘍		第28回	確認テスト⑥ 検査			
第14回	確認テスト③ 循環障害 腫瘍		第29回	予備日			
第15回	前期のまとめ		第30回	予備日			

授業科目 区分	専門	担当科目	呼吸器疾患、感染症	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	15 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	火曜日	4 時限	講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 主な呼吸系疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 主な呼吸器の感染症について概要を説明できる。 3. 喫煙の健康に与える影響について説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.558～566 p.635～643			参考書			
履修上の 注意事項	肺血栓塞栓症の授業は循環器疾患で行う。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	呼吸系疾患(1) 総論						
第2回	呼吸系疾患(2) 疾患としての呼吸不全 上気道閉塞疾患						
第3回	呼吸系疾患(3) 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患						
第4回	呼吸系疾患(4) 無気肺 気管支拡張症 胸膜疾患						
第5回	確認テスト① 呼吸系疾患総論～胸膜疾患						
第6回	呼吸系疾患(5) 肺炎 肺結核 上気道炎						
第7回	呼吸系疾患(6) 過換気症候群 COVID-19						
第8回	呼吸系疾患(7) 肺癌 急性呼吸促進症候群 間質性肺炎						
第9回	呼吸系疾患(8) 喫煙の害						
第10回	確認テスト② 肺炎 ～喫煙の害						
第11回	感染症(1) 総論 敗血症						
第12回	感染症(2) 結核 インフルエンザ						
第13回	感染症(3) 食中毒 輸入感染症 発疹性感染症						
第14回	感染症(4) 性感染症 皮膚・軟部組織の感染症 その他の感染症						
第15回	確認テスト③ 感染症						

授業科目 区分	専門	担当科目	循環器疾患、心電図の観察	単位数	2単位	選択 必修	必修
				時間数	30時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	月曜日	2時限	講義室等	普通教室およびPC教室		
	後期			授業形式	講義および演習(心電図)		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 急性冠症候群を中心とする主な循環系疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 救急で重要な心電図所見が判断できる。				循環器疾患は定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で評価する。心電図解読の試験は循環器疾患の試験とは別に行い、実際の心電図波形の判断を問う。ともに60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.567～586			参考書	心電図の解説書(図書室に多数)		
履修上の 注意事項	心電図12誘導の実技は1年次の救急処置2で履修済みである						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	心電図の観察(1) 心電図の基礎 ノイズ 正常波形						
第2回	心電図の観察(2) 期外収縮 頻脈性不整脈						
第3回	確認テスト① 心電図の基礎～頻脈性不整脈						
第4回	心電図の観察(3) ブロック 徐脈性不整脈						
第5回	心電図の観察(4) 心筋虚血 電解質異常						
第6回	心電図の観察(5) QT延長 低体温 WPW ペースメーカー 小演習						
第7回	確認テスト② ブロック～ペースメーカー等						
第8回	循環系疾患(1) 総論 動脈硬化						
第9回	循環系疾患(2) 疾患としての心不全 虚血性心疾患総論 狭心症						
第10回	循環系疾患(3) 急性心筋梗塞						
第11回	確認テスト③ 循環系疾患総論～急性心筋梗塞						
第12回	循環系疾患(4) 心筋疾患 心膜疾患 弁疾患 感染性心内膜炎 先天性心疾患						
第13回	循環系疾患(5) 大動脈解離 大動脈瘤						
第14回	循環系疾患(6) 末梢血管疾患 高血圧						
第15回	確認テスト④						

授業科目 区分	専門	担当科目	消化器疾患、 泌尿生殖器疾患	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	15 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	月曜日	4時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 主な消化器疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を簡単に説明できる。 2. 主な泌尿・生殖系疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を簡単に説明できる。				定期試験（多肢選択式および記述式筆記試験）で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.587～603			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
				〈後 期〉			
			第1回	消化器疾患(1) 総論			
			第2回	消化器疾患(2) 歯・口腔疾患 食道疾患			
			第3回	消化器疾患(3) 胃・十二指腸疾患			
			第4回	消化器疾患(4) 腸閉塞 上腸間膜動脈閉塞症 ヘルニア			
			第5回	確認テスト① 消化器疾患総論～ヘルニア			
			第6回	消化器疾患(5) 虫垂炎 大腸疾患 肛門疾患 腹膜炎			
			第7回	消化器疾患(6) 肝臓疾患			
			第8回	消化器疾患(7) 胆道疾患 膵臓疾患			
			第9回	確認テスト② 虫垂炎～膵臓疾患			
			第10回	泌尿・生殖系疾患(1) 総論			
			第11回	泌尿・生殖系疾患(2) 急性腎不全・腎障害 慢性腎不全・腎臓病			
			第12回	泌尿・生殖系疾患(3) 透析 その他の腎疾患			
			第13回	泌尿・生殖系疾患(4) 尿路の疾患 男性生殖系疾患 女性生殖系疾患			
			第14回	確認テスト③ 泌尿・生殖系疾患			
			第15回	予備日			

授業科目 区分	専門	担当科目	神経疾患、眼・耳・鼻の疾患	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	15 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 脳卒中を中心に急性神経疾患の疫学、病因、病態、症候、経過、予後、観察、処置を説明できる。 2. 主な慢性神経疾患を簡単に説明できる。 3. 主な眼、耳、鼻の疾患を簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト 第10版 p.546～557、p.630～634			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	神経系疾患(1) 神経系の構造と機能(復習)						
第2回	神経系疾患(2) 疫学 主要症候 基本的対応						
第3回	神経系疾患(3) 脳血管障害総論 脳梗塞						
第4回	神経系疾患(4) 一過性脳虚血発作 くも膜下出血						
第5回	神経系疾患(5) 脳出血 その他の脳血管障害						
第6回	確認テスト① 神経系疾患総論 脳血管障害						
第7回	神経系疾患(6) 中枢神経系の感染症						
第8回	神経系疾患(7) その他の中枢神経疾患						
第9回	神経系疾患(8) 末梢神経総論* 末梢神経疾患				* 上位ニューロンと下位ニューロン、神経障害部位と運動麻痺/感覚障害の分布、神経障害と筋萎縮など		
第10回	確認テスト② 中枢神経系の感染症～末梢神経疾患						
第11回	眼・耳・鼻の疾患(1) 疫学 主要症候						
第12回	眼・耳・鼻の疾患(2) 眼の疾患						
第13回	眼・耳・鼻の疾患(3) 耳の疾患、鼻の疾患						
第14回	確認テスト③ 眼・耳・鼻の疾患						
第15回	予備日						

授業科目区分	専門	担当科目	小児疾患、妊娠と分娩	単位数	1単位	選択必修	必修
				時間数	15時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	水曜日	4時限	講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 小児の成長と発達について簡単に説明できる。 2. 主な小児疾患の概要を説明できる。 3. 正常な妊娠と分娩の過程について説明できる。 4. 妊娠・分娩の合併症の概要を説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.644-657、p.665-675			参考書			
履修上の注意事項	分娩介助の実技については2年次に履修する。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	小児に特有な疾患(1) 総論						
第2回	小児に特有な疾患(2) 観察と判断						
第3回	小児に特有な疾患(3) 熱性痙攣 髄膜炎 脳炎・脳症						
第4回	小児に特有な疾患(4) クループ 喉頭蓋炎 急性細気管支炎 気管支喘息						
第5回	確認テスト① 小児疾患総論～気管支喘息						
第6回	小児に特有な疾患(5) 腸重積 腹痛 感染症 アトピー性皮膚炎						
第7回	小児に特有な疾患(6) HUS 川崎病 SIDS 被虐待児症候群						
第8回	確認テスト② 腸重積～被虐待児症候群						
第9回	妊娠・分娩と救急疾患(1) 正常妊娠						
第10回	妊娠・分娩と救急疾患(2) 異常妊娠と妊娠中の異常						
第11回	妊娠・分娩と救急疾患(3) 正常分娩						
第12回	妊娠・分娩と救急疾患(4) 異常分娩						
第13回	妊娠・分娩と救急疾患(5) 観察と処置						
第14回	確認テスト③ 妊娠・分娩と救急疾患						
第15回	予備日						

授業科目 区分	専門	担当科目	その他の疾患1	単位数	1単位	選択 必修	必修
				時間数	15時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	水曜日	3時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 糖尿病と急性代謝失調について説明できる。 2. 主な代謝・内分泌・栄養障害を簡単に説明できる。 3. アナフィラキシーについてやや詳しく説明できる。 4. 主な血液・免疫系疾患について説明できる。 5. 主な皮疹と皮膚疾患について簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.604-621、p.627-629			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
				〈後期〉			
			第1回	代謝・内分泌・栄養系疾患(1) 総論 糖尿病(概念 疫学 分類・病態)			
			第2回	代謝・内分泌・栄養系疾患(2) 糖尿病(慢性合併症 糖尿病足 治療)			
			第3回	代謝・内分泌・栄養系疾患(3) 糖尿病(急性代謝失調)			
			第4回	確認テスト① 代謝内分泌栄養系疾患総論、糖尿病			
			第5回	代謝・内分泌・栄養系疾患(4) 脱水・溢水 血清電解質異常			
			第6回	代謝・内分泌・栄養系疾患(5) 酸塩基平衡の障害 高尿酸血症 脂質異常症			
			第7回	代謝・内分泌・栄養系疾患(6) 内分泌疾患			
			第8回	代謝・内分泌・栄養系疾患(7) 栄養疾患			
			第9回	確認テスト② 脱水・溢水～栄養疾患			
			第10回	血液・免疫系疾患(1) 総論 血液疾患			
			第11回	血液・免疫系疾患(2) 免疫疾患 アナフィラキシー			
			第12回	皮膚疾患(1) 総論			
			第13回	皮膚疾患(2) 各論			
			第14回	確認テスト③ 血液・免疫系疾患 皮膚疾患			
			第15回	予備日			

授業科目 区分	専門	担当科目	その他の疾患2	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	15 時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	木曜日	4時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 主要な精神症候を簡単に説明できる。 2. 主な精神障害の概要を説明できる。 3. 高齢者と高齢者疾患の特性について説明できる。 4. 主な高齢者疾患について概要を説明できる。 5. 主な筋・骨格系疾患について、概要を説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.676-686、658-664、622-626			参考書	病院前精神科救急(事例から学ぶ対応テキスト)		
履修上の 注意事項	系統的筋疾患についてはこの科目で履修する。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
				〈後 期〉			
			第1回	精神障害(1) 総論(1)分類 疫学 主要症候(前半)			
			第2回	精神障害(2) 総論(2)主要症候(後半) 基本的対応			
			第3回	精神障害(3) 統合失調症 気分障害			
			第4回	精神障害(4) 器質的精神障害 中毒性障害			
			第5回	精神障害(5) パニック障害 PTSD 解離性・転換性障害 摂食障害			
			第6回	精神障害(6) パーソナリティ障害 精神遅滞 広汎性発達障害 向精神薬の副作用			
			第7回	確認テスト① 精神障害			
			第8回	高齢者に特有な疾患(1) 総論			
			第9回	高齢者に特有な疾患(2) 高齢者虐待 認知症			
			第10回	高齢者に特有な疾患(3) せん妄 誤嚥性肺炎 脱水 骨粗鬆症 褥瘡 廃用症候群			
			第11回	確認テスト② 高齢者に特有な疾患			
			第12回	筋・骨格系疾患(1) 総論			
			第13回	筋・骨格系疾患(2) 脊椎の構造(復習) 腰背部痛(復習) 脊椎疾患			
			第14回	筋・骨格系疾患(3) 関節疾患 筋疾患			
			第15回	確認テスト③			

授業科目 区分	専門	担当科目	外傷総論	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	30 時間		
担当教員	宮尾 政成		受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期			講義室等	2年教室		
	後期	月曜日	1時間	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 外傷の疫学と治療システムについて簡単に説明できる。 2. 外力の加わり方の種類について説明できる。 3. 受傷機転に特徴的な損傷の例を挙げることができる。 4. 外傷の生体反応について簡単に説明できる。 5. 外傷の現場活動について概要を説明できる。				定期試験			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト			参考書	JPTECガイドブック		
履修上の 注意事項	毎日の予習復習を積極的に励行すること。 外傷システム等サブテキストを利用して専門的知識を養うこと。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉				〈後 期〉			
			第1回	外傷の疫学 (1) 外傷死 外傷入院患者・救急搬送数			
			第2回	受傷機転とエネルギー (1) 受傷機転 エネルギー 衝突と力学			
			第3回	受傷機転とエネルギー (2) 受傷機転 エネルギー 衝突と力学			
			第4回	外傷の分類 (1) 成傷器・損傷部位・損傷部位の数			
			第5回	主な受傷形態 (1) 四輪車・二輪車・自転車・歩行者			
			第6回	主な受傷形態 (2) 転落・重量物落下・動力機械・狭圧			
			第7回	主な受傷形態 (3) 杵創・爆傷・高圧注入・スポーツ			
			第8回	考査 1 侵襲への反応 (1) 循環動態・炎症性メディエータ			
			第9回	外傷に伴うショック (1) 出血性ショック・非出血性ショック			
			第10回	外傷に伴うショック (2) 出血性ショック・非出血性ショック			
			第11回	状況評価 (1) 情報収集・感染防御・資器材の確認			
			第12回	状況評価 (2) 安全確認・傷病者数・受傷機転			
			第13回	傷病者の評価 (1) 初期評価・全身観察			
			第14回	傷病者の評価 (2) 重点観察・重症度・緊急度			
			第15回	考査 2 傷病者の評価 (3) 医療機関選定・搬送中の活動			

授業科目 区分	専門	担当科目	外傷各論	単位数	3単位	選択 必修	必修
				時間数	45時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	2年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	月曜日2時限、水曜日1時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 各部位の主要な外傷の受傷機転、病態、症候、処置について説明できる。 2. 熱傷、化学損傷、電撃症・雷撃症、縊頸・絞頸、刺咬症について、それぞれ簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.715-785			参考書	JPTECガイドブック		
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後期〉				〈後期〉			
第1回	頭部外傷(1) 疫学 受傷機転 病態		第16回	四肢外傷(1) 疫学 病態 骨折			
第2回	頭部外傷(2) 頭皮損傷 頭蓋骨骨折 頭蓋内損傷		第17回	四肢外傷(2) 脱臼 軟部組織損傷 切断 広範囲剥皮創			
第3回	頭部外傷(3) 続発症・後遺症 現場活動		第18回	四肢外傷(3) 筋区画症候群 圧挫症候群			
第4回	顔面・頸部外傷		第19回	四肢外傷(4) 現場活動			
第5回	確認テスト① 頭部外傷 顔面・頸部外傷		第20回	確認テスト④ 四肢外傷			
第6回	脊椎・脊髄外傷(1) 脊椎の構造(復習) 脊椎損傷		第21回	小児・高齢者・妊婦の外傷(1) 小児の外傷			
第7回	脊椎・脊髄外傷(2) 脊髄の構造(復習) 脊髄損傷		第22回	小児・高齢者・妊婦の外傷(2) 高齢者の外傷 妊婦の外傷			
第8回	胸部外傷(1) 疫学 受傷機転 病態 心・大血管損傷		第23回	熱傷(1) 疫学 受傷機転 病態 注意を要する熱傷			
第9回	胸部外傷(2) 肺損傷 気管・気管支損傷 血/気胸 胸郭損傷 横隔膜損傷 外傷性窒息		第24回	熱傷(2) 評価 現場活動			
第10回	胸部外傷(3) 現場活動 処置実技確認		第25回	確認テスト⑤ 小児・高齢者・妊婦の外傷 熱傷			
第11回	確認テスト② 脊椎・脊髄外傷 胸部外傷		第26回	化学損傷			
第12回	腹部外傷(1) 疫学 受傷機転 病態 実質臓器損傷		第27回	電撃傷 雷撃傷			
第13回	腹部外傷(2) 消化管損傷 血管損傷 後腹膜臓器損傷 腹壁損傷 現場活動		第28回	縊頸 絞頸 扼頸 刺咬症(1) 哺乳類			
第14回	骨盤外傷		第29回	刺咬症(爬虫類、節足動物、海生動物)			
第15回	確認テスト③		第30回	確認テスト⑥			

授業科目 区分	専門	担当科目	シミュレーション基本 2	単位数	4 単位	選択 必修	必修	
				時間数	180 時間			
担当教員	小林拓幹 宮尾政成 武井雅都			受講学科	救急救命士学科		学年	2 年
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月～金	1週あたり7時間	講義室等	実習室			
	後期			授業形式	実習			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1学年で習得した救急資器材の取り扱いを取り込み、現場活動に限局した単純で短いシナリオに沿ったシミュレーションが行える。				授業時間内に随時行う実技試験で評価する				
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版			参考書	JPTECガイドブック改訂第2版			
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりとすること 救急用資器材に精通すること							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈前期〉				
第1回	症例1 (第1～4回) 咳と痰による呼吸苦			第16回	症例16(第61～64回) いきなり倒れ痙攣している			
第2回	症例2 (第5～8回) ハチに刺され蕁麻疹と呼吸苦			第17回	症例17(第65～68回) 食事中に苦しみだした			
第3回	症例3 (第9～12回) 急に意識を失った			第18回	症例18(第69～72回) 頸部痛を訴えている			
第4回	症例4 (第13～16回) 仕事中に卒倒			第19回	症例19(第73～76回) 2階から落ちた			
第5回	症例5 (第17～20回) うまく喋れず、動くこともできない			第20回	症例20(第77～80回) バイクの単独事故			
第6回	症例6 (第21～24回) 道路で卒倒			第21回	症例21(第81～84回) バイクの転倒による単独事故			
第7回	症例7 (第25～28回) 在宅酸素療法者の呼吸苦			第22回	症例22(第85～88回) 高所からの転落			
第8回	症例8 (第29～32回) 呼びかけてもぐったりしている			第23回	症例23(第89～92回) 2階から転落			
第9回	症例9 (第33～36回) リゾートホテルで心肺停止状態			第24回	症例24(第93～96回) 親指をマル鋸で切断した			
第10回	症例10(第37～40回) 動悸と息切れがする			第25回	症例25(第97～100回) 喧嘩をして刃物で刺された			
第11回	症例11(第41～44回) 胸痛が20分以上継続			第26回	症例26(第101～104回) 炎天下で草刈後に気分不良			
第12回	症例12(第45～48回) 呼びかけても反応がない			第27回	症例27(第105回) まとめ			
第13回	症例13(第49～52回) 急激な胸痛							
第14回	症例14(第53～56回) 運動後に呼吸苦							
第15回	症例15(第57～60回) 急に血を吐いた							

授業科目 区分	専門	担当科目	シミュレーション応用 1	単位数	4 単位	選択 必修	必修	
				時間数	180 時間			
担当教員	小林拓幹 宮尾政成 武井雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室		
	後期	月～金	1週あたり7時間		授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. すでに学んだ観察、処置の技術を迅速的確に应用できる。 2. 入電からの活動時間を次第に拡げ、最終的には車内収容までを含めたやや複雑なシナリオに沿って、シミュレーション活動ができる。					授業時間内に随時行う実技試験で評価する			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりとすること 救急用資器材に精通すること							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉				〈後 期〉				
第1回	症例1 (第1～4回) 家事の最中に気を失った			第16回	症例16(第61～64回) 自動車の単独事故			
第2回	症例2 (第5～8回) 別荘で倒れていた			第17回	症例17(第65～68回) 乗用車とバイクの衝突事故			
第3回	症例3 (第9～12回) 家で倒れていた			第18回	症例18(第69～72回) 足場から落ちた			
第4回	症例4 (第13～16回) 呼吸困難を訴えている			第19回	症例19(第73～76回) 乗用車同士の衝突事故			
第5回	症例5 (第17～20回) 呼びかけても反応が鈍い			第20回	症例20(第77～80回) 喧嘩で腹を刺された			
第6回	症例6 (第21～24回) 仕事中に呼吸困難			第21回	症例21(第81～84回) 乗用車同士の衝突事故			
第7回	症例7 (第25～28回) 仕事中に胸痛			第22回	症例22(第85～88回) 作業中にやけどした			
第8回	症例8 (第29～32回) 呼吸困難と気分不良			第23回	症例23(第89～92回) 子どもが溺れている			
第9回	症例9 (第33～36回) 突然の胸痛			第24回	症例24(第93～96回) 乗用車の単独事故			
第10回	症例10(第37～40回) 腰を痛がっている			第25回	症例25(第97～100回) 赤ん坊が生まれそうだ			
第11回	症例11(第41～44回) 息が苦しいと言っている			第26回	症例26(第101～104回) 妻が下腹部を痛がっている			
第12回	症例12(第45～48回) 就寝中に血を吐いた			第27回				
第13回	症例13(第49～52回) 急に腹が痛くなった			第28回				
第14回	症例14(第53～56回) 子どもが熱を出して苦しんでいる			第29回				
第15回	症例15(第57～60回) 息子が急に気を失った			第30回				

授 業 計 画

(2023年度)
救急救命士学科 3年生

授業科目 区 分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成	単位数	1 単位	選択 必修	必修
				時間数	30 時間		
担当教員	小林 拓幹		受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-				
実務経験 の運用							
学期区分	前期	月曜日	1 時限	講義室等	グラウンド・実習室		
	後期			授業形式	演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
礼節を明らかにして規律を正し、和衷共同にして団結を強固にし、確実軽快な部隊行動ができる。将来消防官として職務遂行ができる統制のある規律と精神力、体力増進の基礎を体得する。				定期試験(実技)			
教科書				参考書	消防訓練礼式の基準		
履修上の 注意事項	「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏かつ節度のある体動で臨むこと。 「服装」は端正にして統一されていること。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉							
第1回	実技試験① 体力錬成			体力錬成の概要			
第2回	停止間の動作(1) ・気を付け・整列休め・休め			(1) 柔軟体操 (2) ランニング (3) 腕立て伏せ 100回			
第3回	停止間の動作(2) ・右向け右・左向け左・回れ右			(4) 背筋 100回 (5) 腹筋 100回			
第4回	停止間の動作(3) ・右向け右・左向け左・回れ右			(6) スクワット 100回 (7) バービージャンプ 20回			
第5回	行進間の動作(1) ・前へ進め・速足止まれ			(8) ラウンジスクワット 20回 (9) 反復横跳び 20回			
第6回	行進間の動作(2) ・回れ右前へ進め			(10) ダッシュ 2本 (11) 背走 2本			
第7回	行進間の動作(3) ・右・左向け前へ進め・速足止まれ			(12) ファイヤーマンズキャリー (13) サドルバックキャリー			
第8回	行進間の動作(4) ・右・左向け前へ進め・速足止まれ			(14) 手押し車 (15) クールダウン			
第9回	停止間から行進間の動作(1) ・側面縦隊の行進						
第10回	停止間から行進間の動作(2) ・側面縦隊の行進						
第11回	服装・手帳の点検 ・帽子・上下衣・手帳						
第12回	敬礼 ・拳手の敬礼・室内の敬礼・部隊の敬礼						
第13回	点検要領(1) ・通常点検						
第14回	実技試験② 礼式・体力錬成						
第15回	実技試験③ 礼式・体力錬成						

授業科目 区分	専門	担当科目	急性中毒学、環境に起因する疾患	単位数	2単位	選択 必修	必修
				時間数	30時間		
担当教員	瀧野昌也		受講学科	救急救命士学科		学年	3年生
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期	火曜日	1時限	講義室等	普通教室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 重要な急性中毒を列挙し、夫々の概要について説明できる。 2. 異物、溺水、熱中症、低体温症、放射線障害の病態、症候、処置について説明できる。 3. 上記以外の主な外因性疾患を挙げ、夫々簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.1056～1125			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前期〉							
第1回	急性中毒学(1) 概念 中毒物質と疫学 病態生理						
第2回	急性中毒学(2) 観察と処置 現場活動 中毒情報 医療機関での診療						
第3回	急性中毒学(3) 医薬品中毒						
第4回	急性中毒学(4) 農薬中毒 工業用品中毒						
第5回	確認テスト① 急性中毒学(総論～工業用品中毒)						
第6回	急性中毒学(5) ガス中毒 アルコール中毒						
第7回	急性中毒学(6) 自然毒						
第8回	急性中毒学(7) 家庭用品中毒 乱用薬						
第9回	確認テスト② ガス中毒～乱用薬						
第10回	環境障害(1) 異物 溺水						
第11回	環境障害(2) 熱中症 偶発性低体温症						
第12回	環境障害(3) 放射線障害						
第13回	環境障害(4) 高山病 減圧障害 酸素欠乏症 凍傷 紫外線障害						
第14回	確認テスト③ 異物～紫外線障害						
第15回	予備日						

授業科目 区分	専門	担当科目	シミュレーション応用2		単位数	5単位	選択 必修	必修
					時間数	206時間		
担当教員	小林拓幹 宮尾政成 武井雅都		受講学科	救急救命士学科			学年	3年
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月～金	1週あたり計8時限		講義室等	実習室		
	後期				授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
観察、判断、行動の各要素を合理的に実行しつつ、やや長く複雑な経過のシナリオに沿って行動できる。					授業時間内に随時行う実技試験で評価する			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりと行うこと 出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉								
第1回	症例1 1～3回 ゴルフ中に強い頭痛を訴える	第16回	症例16 46～48回 軽自動車の単独事故	第31回	症例31 91～93回 同僚が倒れた			
第2回	症例2 4～6回 バイクと車の衝突	第17回	症例17 49～51回 男性が胸部の強い圧迫感を訴える	第32回	症例32 94～96回 足に薬品がかかった			
第3回	症例3 7～9回 女性が路地で倒れている	第18回	症例18 52～54回 男性が車に跳ねられた	第33回	症例33 97～99回 息子が苦しんでいる			
第4回	症例4 10～12回 包丁で刺された	第19回	症例19 55～57回 妻が胸の苦しさを訴えている	第34回	症例34 100～102回 公園のベンチで倒れている			
第5回	症例5 13～15回 女性が血を吐いた	第20回	症例20 58～60回 旦那が自分に火を付けた	第35回	症例35 103～105回 旦那が雪かき中に腰を痛めた			
第6回	症例6 16～18回 腕をベルトコンベアーに挟まれた	第21回	症例21 61～63回 夫が急に倒れた	第36回	症例36 106～108回 ベッドに倒れていた			
第7回	症例7 19～21回 胸痛を訴えている	第22回	症例22 64～66回 隣の家の新聞が溜まっている	第37回	症例37 109～111回 腹が痛い			
第8回	症例8 22～24回 乗用車に跳ねられ意識がない	第23回	症例23 67～69回 夫が足の激痛を訴えている	第38回	症例38 112～114回 グラウンドに雷が落ちた			
第9回	症例9 25～27回 吐き気がして気持ちが悪い	第24回	症例24 70～72回 別荘で夫婦が倒れている	第39回	症例39 115～117回 茶色いものを吐いた			
第10回	症例10 28～30回 乗用車と小型トラックの衝突	第25回	症例25 73～75回 子供が引きつけを起こしている	第40回	症例40 118～120回 妊婦が腹痛を訴えている			
第11回	症例11 31～33回 手が痺れる	第26回	症例26 76～78回 娘が風呂に落ちた					
第12回	症例12 34～36回 重機と塀の間に挟まれた	第27回	症例27 79～81回 母が喋れない 身体も動かない					
第13回	症例13 37～39回 頸の後ろが痛い	第28回	症例28 82～84回 交通事故で怪我をした					
第14回	症例14 40～42回 子供がベッドから落ちた	第29回	症例29 85～87回 同僚が急に手の麻痺を訴えている					
第15回	症例15 43～45回 5歳の娘が苦しんでいる	第30回	症例30 88～90回 子供が犬に咬まれた					

授業科目 区分	専門	担当科目	シミュレーション応用3		単位数	4単位	選択 必修	必修
					時間数	180時間		
担当教員	小林拓幹 宮尾政成 武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	3年	
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室および救急車内		
	後期	月～金	1週あたり7時限		授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 予想外の展開も加わる複雑なシナリオにおいて、臨機応変かつ迅速・正確に対応することができる。 2. 毎回変わるシナリオにおいて、シナリオの暗記に頼らず自分の観察と判断によって対応できる。 3. 119番通報から現場・救急車内及び医療機関到着までの想定訓練により一連の救急活動を模擬的に体験する。					すべての回を展示とみなし、救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後期〉								
第1回	症例1 救急車 走行実習1	第16回	症例16 外因3	第31回	症例31 内因11	第46回	症例46 外因18	
第2回	症例2 救急車 走行実習2	第17回	症例17 内因4	第32回	症例32 外因11	第47回	症例47 内因19	
第3回	症例3 救急車 走行実習3	第18回	症例18 外因4	第33回	症例33 内因12	第48回	症例48 外因19	
第4回	症例4 救急車 走行実習4	第19回	症例19 外因5	第34回	症例34 外因12	第49回	症例49 内因20	
第5回	症例5 救急車 走行実習5	第20回	症例20 内因5	第35回	症例35 内因13	第50回	症例50 外因20	
第6回	症例6 救急車 走行実習6	第21回	症例21 外因6	第36回	症例36 外因13	第51回	症例51 内因21	
第7回	症例7 救急車 走行実習7	第22回	症例22 内因6	第37回	症例37 内因14	第52回	症例52 外因21	
第8回	症例8 救急車 走行実習8	第23回	症例23 外因7	第38回	症例38 外因14	第53回	症例53 内因22	
第9回	症例9 救急車 走行実習9	第24回	症例24 内因7	第39回	症例39 内因15	第54回	症例54 外因22	
第10回	症例10 救急車 走行実習10	第25回	症例25 外因8	第40回	症例40 外因15	第55回	症例55 内因23	
第11回	症例11 外因1	第26回	症例26 内因8	第41回	症例41 内因16	第56回	症例56 外因23	
第12回	症例12 内因1	第27回	症例27 外因9	第42回	症例42 外因16	第57回	症例57 内因24	
第13回	症例13 内因2	第28回	症例28 内因9	第43回	症例43 内因17	第58回	症例58 外因24	
第14回	症例14 外因2	第29回	症例29 内因10	第44回	症例44 外因17	第59回	症例59 内因25	
第15回	症例15 内因3	第30回	症例30 外因10	第45回	症例45 内因18	第60回	症例60 外因25	

授業科目 区分	専門	担当科目	シミュレーション応用3		単位数	4単位	選択 必修	必修
					時間数	180時間		
担当教員	小林拓幹 宮尾政成 武井雅都		受講学科	救急救命士学科		学年	3年	
実務教員	△	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり(武井)					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室および救急車内		
	後期	月～金	1週あたり7時限		授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 予想外の展開も加わる複雑なシナリオにおいて、臨機応変かつ迅速・正確に対応することができる。 2. 毎回変わるシナリオにおいて、シナリオの暗記に頼らず自分の観察と判断によって対応できる。 3. 119番通報から現場・救急車内及び医療機関到着までの想定訓練により一連の救急活動を模擬的に体験する。					すべての回を展示とみなし、救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。			
教科書	第10版 救急救命士標準テキスト				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後期〉								
第61回	症例61 内因26	第76回	症例76 外因33	第91回	症例91 内因41			
第62回	症例62 外因26	第77回	症例77 内因34	第92回	症例92 外因41			
第63回	症例63 内因27	第78回	症例78 外因34	第93回	症例93 内因42			
第64回	症例64 外因27	第79回	症例79 内因35	第94回	症例94 外因42			
第65回	症例65 内因28	第80回	症例80 外因35	第95回	症例95 内因43			
第66回	症例66 外因28	第81回	症例81 内因36	第96回	症例96 外因43			
第67回	症例67 内因29	第82回	症例82 外因36	第97回	症例97 内因44			
第68回	症例68 外因29	第83回	症例83 内因37	第98回	症例98 外因44			
第69回	症例69 内因30	第84回	症例84 外因37	第99回	症例99 内因45			
第70回	症例70 外因30	第85回	症例85 内因38	第100回	症例100 外因45			
第71回	症例71 内因31	第86回	症例86 外因38	第101回	症例101 内因46			
第72回	症例72 外因31	第87回	症例87 内因39	第102回	症例102 外因46			
第73回	症例73 内因32	第88回	症例88 外因39	第103回	症例103 内因47			
第74回	症例74 外因32	第89回	症例89 内因40	第104回	症例104 外因47			
第75回	症例75 内因33	第90回	症例90 外因40	第105回	症例105 内因48			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急自動車同乗実習	単位数	1 単位	選 択 必 修	必 修
				時間数	45 時間		
担当教員	施設責任者(実習管理者:宮尾)		受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員		実務経験					
実務経験 の運用							
学期区分	前期	5日間	1日8時間	講義室等	配属された消防署内、救急車内、救急現場		
	後期			授業形式	実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 実際の救急活動に参加し、その全体像を把握する。 2. 救急救命士の業務を具体的に理解し、職業的態度と職業倫理を学ぶ。 3. 可及的に処置に参加し、知識・技術の向上を図る。				実習先施設の実習指導者による評価を主に、実習後に本校で実施する症例発表の評価を加味して行う。			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版			参考書	適宜指示		
履修上の 注意事項	実習の場所、内容、方法、記録等については実習要項に記載する						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉				〈後 期〉			
第1回	1. 厚生労働省令に指定した項目を中心に、定められた水準に従って実習する。 2. 8月の1週間を充てる。具体的なスケジュールは施設ごとに設定する。 3. 実習時間は1日8時間を原則とする。 4. 直接の指導は実習施設の救急救命士が行い、本校教員は実習の調整と実習前後の補完的教育を行う。						
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							

令和5年4月1日発行

発行・編集 長野救命医療専門学校
救急救命士学科

〒389-0516 長野県東御市田中 66-1

連絡先: Tel0268-64-6699